

初春からの練習のたまものか、うぐいすの鳴き声が上手になってきました。
現在会員登録数 3,715 人さま。次号は 5 月 20 日発行の予定です／

＋----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

●オンライン国際講演会「ことばを超えて－絵で物語る」

Beyond Words : Storytelling with Pictures

世界を代表する絵本作家、デイヴィッド・ウィーズナーさんとショーン・タンさんの対談を字幕付きで配信します。(約2時間)

◎視聴期間：配信中～5月8日(日) ◎視聴料：1300円

※お申し込みは、外部決済システム「Peatix」のイベントページから

<https://wiesner-tan.peatix.com>

●YouTubeで無料公開中！

「第18回 国際グリム賞 贈呈式・記念講演会」

記念講演「21世紀における中国児童文学の創作と研究の潮流」

講師：〈受賞者〉朱自強 教授 (中国海洋大学教授)

<https://youtu.be/rFrmSeXxuhw>

「特別講演「お話の種の育て方」」

講師：富安陽子さん(童話作家、「日産 童話と絵本のグランプリ」審査員)

<https://youtu.be/0hvIFhcmlkQ>

●寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

*年間1万円以上ご寄付いただいた方には、イイクロちゃんグッズをプレゼントしています。

詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」
<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>
公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【 2 】 コラム
■ ----- ■

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Aya's Talk

『 13 枚のピンぼけ写真』キアラ・カルミナーティ/作 関口英子/訳 古山拓/絵 岩波書店 2022年3月 対象年齢：中学生以上

* 今回のゲストはイタリア語の翻訳者のよしとみあや（A）さんです。

あらすじ：1914年、13歳の少女イオランダは、第一次世界大戦のために、両親と来ていたオーストリアの出稼ぎ先から故郷のイタリア、マルティニャッコ村へ帰る。父と兄たちが出征し、オーストリアの観光地であるグラード出身の母が橋の警備をしている兵隊の誘いを断ったことから、憲兵にスパイ容疑で連行され、イオランダは妹マファルダとウーディネに住むアデーレおばさんを訪ねる。そこで二人は母方の祖母について詳しく知ることになる。1918年までのイオランダの家族と恋を描いた作品。

Y：作者のカルミナーティは、2018年の国際アンデルセン賞のイタリアの作家賞候補で、国際選考委員であった私は、この作品を英語で読みました。よしとみさんにはイタリア語で読んでいただいて、助言をいただきました。ありがとうございました。

A：カルミナーティの代表作として5作が挙げられていましたが、その中で私が一番評価した作品でした。それは、戦争に行かないけれども家に残って日々の暮らしを続ける中で戦争を経験する女性たちを取り上げている点、前線へ向かう男たちの高揚した気持ちと家に残る女たちの淡々と事態を受け入れる様子が対比されている点が非常に珍しく思ったからです。

Y：この作品は、選考委員の中でも評価が高く、受賞作家とは別に推薦本に選ばれました。主人公のイオランダが、どんな状況でも生き抜こうとする様子が心に残ると同時に、人の心を見抜く力を持ったアデーレおばさんが魅力的でした。

原題のタイトル、「Fuori fuoco」はどういう意味ですか。

A：「ピンぼけ」という意味ですが、「火や火災、砲火の外」という意味もあり、戦争でフォーカスされていない人々を描く、戦火の外にいる人たちの「戦争」を描くという意味があると思います。

Y：イタリアの児童文学作品の中で位置づけるとどういった評価になりますか。

A：これまでイタリア児童文学にあまりなかったテーマです。作品の中では母と祖母の確執と和解も語られますが、主人公とその親の親離れ・子離れではなく、親（母）とその親（祖母）の親離れ・子離れが描かれている点も

他にはないテーマだと思いました。

Y：女性という意味では、女性と仕事、経済的な自立について書かれている点も興味深かったです。加えて恋愛が描かれます。そして、戦争の中での出産場面が描かれ生と死について考えさせられるようになっていきます。

A：恋愛は、10代の読者がおおいに興味を持つ点だと思います。

Y：作品の中には13枚の同じ画像がはさまれ、そこに、キャプションが書かれています。それによって状況が客観的になったり、作品を別の視点から読み取ることができるようになっていたりしており、興味深かったです。

A：著者は詩人で、詩を通じて子どもたちに言葉の持つ力、楽しさを伝えようとする活動を長く続けています。「わたしの頭のなかで、いくつもの疑問がビンに閉じこめられたハエのようにぶんぶんまわりだした」(p.117)のような小説の中に登場する比喩に詩人らしさが現れていると思いました。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第80回「サガレンと八月」

面影をもとめて

「私が茨海の野原に行ったのは、火山弾の手頃な標本を採るためと、…」は、前回の「茨海小学校」(当メルマガ N0.139)の書き出しですが、「サガレンと八月」は、こう語り出されます。

〈「何の用でここへ来たの、何かしらべに来たの、何かしらべに来たの。」

西の山地から吹いて来たまだ少しつめたい風が私の見すばらしい黄いろの上着をぱたぱたかすめながら何べんも何べんも通って行きました。

「おれは内地の農林学校の助手だよ、だから標本を集めに来たんだい。」〉

サガレンは、現在のロシア領サハリンで、日本では樺太と呼ばれてきました。賢治は、1923年の7月末から、農学校の教え子の就職の依頼のために樺太に旅行したのです。その前年の妹トシの死は「永訣の朝」などの詩を生むことになりましたが、この旅行でも、トシの面影をもとめて、「青森挽歌」「オホーツク挽歌」などが書かれました。「サガレンと八月」は、「海面は朝の炭酸のためにすっかり錆びた」とはじまる「オホーツク挽歌」と同じ場所が舞台です。

「こんなオホーツク海のなぎさに座って乾いて飛んで来る砂やはまなすのいい匂を送って来る風のきれぎれのものがたりを聴いているとほんとうに不思議な気持がするのです。」という「私」は、風から聴いた物語を語ります。それはタネリの物語で、タネリは、おかあさんの言いつけを守らずに、浜でひろったくらげをすかして空を見てしまいます。すると、空は、にわかにかい色にかわり、三足の大きな白い犬にまたがったギリヤークの犬神がやってきます。タネリは、犬神にとらえられて、暗い孔に追い込まれるのです。

ところが、ここで物語は不意に中断され、未完に終わります。タネリの物語には、いったいどんな寓意があるのでしょうか。「オホーツク挽歌」の「わたくしが樺太のひとのない海岸を／ひとり歩いたり疲れて睡ったりしているとき／とし子はあの青いところのはてにいて／なにをしているのかわからない」

という詩句を思い出せば、タネリは、そのとし子のようにも思えます。同時に、「サガレンと八月」の「私」に、妹をうしなった深いかなしみの中にいる賢治を重ねるなら、とじこめられたタネリは、「私」自身のようにも思えるのです。(馬車別当)

(本文の引用は、新潮文庫版『宮沢賢治万華鏡』によりました。)

《3》子どもの本の珠玉のことば 34

「赤井土木の勝手な言い分をことわったからといって、なんで、非国民といわれる理由がある。」

じいさんは腹だたしそうにいった。

「そんなら、おとうが石まぶをわたさんでも、非国民じゃないな。」

うれしかった。権六はとびあがるように立ちあがって、三郎にいった。

「みてみろ、わるいのはあいつらじゃ。おとうはぜったい非国民なんかにならんぞ。」

権六はだれにでもいい。だれかに大声でどならずにはおれない気持ちだった。

「権六一」

権六はうしろから声をかけられて、おどろいてふりむいた。和彦が立っていた。いままで権六たちが、この家にきても、めったに顔を見せない和彦であった。

「権六。非国民でないと、そんなにうれしいか。よかったな。」

(『石切り山の人びと』竹崎有斐/作 偕成社 1976年12月 p.162)

昭和18年、熊本の村に住む小学五年生のガキ大将、権六の日常を描いた長編作品で、日本児童文学者協会賞ほか、多くの賞を受賞しました。現在は、図書館か電子書籍で読むことができます。

権六の父は、石工の棟梁ですが、赤井土木が軍事設備のためという大義名分を使って父の石を切り出す現場＝石まぶ(p.43)を乗っ取ろうとしています。けれど父が断ると、非国民と言われるのではないかと、権六は心配しています。じいさんとは、近頃、屋敷山に戻ってきた元予備役陸軍大佐で、息子の和彦がアカの烙印を押され、特高警察に見張られるようになったため、和彦と和彦の娘のみよとともに屋敷山で暮らしています。

権六と三郎と福助というガキ大将三人組はこれまで屋敷山を自分たちのテリトリーにしていたが、赤井土木の息子である赤井龍三たちにのっとられそうになってけんかをし、赤龍たちを追いだしたら、じいさんが出てきて、この山の持ち主だと名乗ります。

それから、権六たち3人は、じいさんのヤギの乳を絞って売ることによって現金収入を得ますが、戦争によって3人は違う道を歩まなければならなくなります。そして、権六は父の苦悩を見続けます。戦争中の権力のありようや言論統制

の恐ろしさなどが読み取れ、今の世界の状況と重なるところもある作品だと思いました。(Y)

参考：

「日本の子どもの本 100 選」『石切り山の人びと』（奥山恵/解題書誌作成）
<http://www.iiclo.or.jp/100books/1946/htm/frame092.htm>

《4》 行って来ました！

兵庫県公館の県政資料館で5月14日まで開催されている「笑いと反骨の画家田島征彦展」に行ってきました。型絵染の布、絵本原画など約30点が展示されています。

廊下に展示された『じごくのそうべえ』（田島征彦作 童心社 1978年5月）のユーモラスな原画に誘われて展示室に向かいました。壁面には『せきれい丸』（たじまゆきひこ きどうちよしみ作 くもん出版 2020年11月）の原画が14点展示されています。1945年12月、淡路島から明石へ行くせきれい丸という船が、定員を超える300人以上を乗せて転覆し、45人しか生き残らなかったという実際にあった事件が題材のお話です。主人公のひろしが友だちを亡くしたり、戦争で死んだ父の声を聞いたりする荒波の場面の迫力に鳥肌が立ちました。

天井には、祇園祭を描いた「神興振り」「喧騒の中で」という型絵染の大きな布の色鮮やかな作品が吊るされており、祭りの音が聞こえてくるような気がしました。一つの壁面には、絵本の原画ではない、「サバンナ」「夏の図形」などの作品が展示されていました。シマウマの群れが飛び跳ねる様子は幻想的で、サバンナの熱気を感じました。

新しく出版される予定の絵本『なきむしせいとく 沖縄戦にまきこまれた少年の物語』（童心社）のダミー本が3冊置かれていました。原画はありませんでしたが、田島さんによって絵の配置や文章などに手が入られていく過程がわかります。『せきれい丸』と同様に戦争がテーマになっており、田島さんの平和に対する強い思いを感じました。出版された本でもう一度じっくり読み直したいと思いました。(K)

兵庫県公館 県政資料館

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk03/kenseisiryoukan.html>

■ ----- ■

【3】全国のイベント紹介

■ ----- ■

● 「田島征三 アートのぼうけん展」

会 期：4月23日（土）～6月12日（日）

場 所：刈谷市美術館

入場料：有料 ※ 中学生以下無料

主 催：刈谷市美術館、NHKエンタープライズ中部

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■

【４】プレゼント

■ ----- ■

今号のコラム《１》「この本読んだ？」で紹介しました『１３枚のピンぼけ写真』をプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.140 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は５月１０日（火）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — |

新緑の季節になってきました。今年はマスクのおかげで花粉症が軽症ですみました。当分、マスクは外せないでしょうが、GWには、気持ちよく外歩きをしたいと楽しみにしています。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

